

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

市場と中銀の作用・反作用

<ポイント>

- ◆先週金曜は、Fischer・FRB 副議長のタカ派的な発言を受けてドルが対円、対ユーロで上昇したのが特徴的だった。ドル/円は一時 121.75 円まで上昇、ユーロ/ドルは 1.12ドルを割り込み一時 1.1156ドルの安値をつけた。
- ◆この間、中国株価や原油価格が大幅続伸したが、米ドル高の影響もあってカナダドルや豪ドルなどのコモディティ通貨の上昇は限定的となった。
- ◆本日は、明日以降の米重要経済指標発表前で相対的に注目度は低いが、ユーロ圏 8 月 HICP 速報値や米シカゴ PMI が発表予定となっている。中ではユーロ圏 HICP が注目度で、市場予想の前年比 +0.1%への低下を更に下回ると、デフレ再発懸念と ECB 追加緩和期待が高まり、ユーロ/ドルが続落しそうだ。
- ◆ドル/円は、中国株価の持ち直し継続が下支えとなる一方、米利上げ期待についてはやや行き過ぎで調整が入り易いとみられることから、121 円台でのみみ合い推移となりそうだ。

昨日までの世界：副議長は本当にタカ派か？

ドル/円は、欧州時間までは 121 円丁度を挟んだ小動きに終始していたが、Fischer・FRB 副議長のジャクソンホール・シンポジウム前のインタビュー内容がタカ派的と受け止められ、ドル/円は一時 121.75 円まで上昇した。Fischer 副議長は、人民元安の影響を見極める必要がある、今すぐに動く必要はない、市場ボラティリティが利上げ開始時期に影響する、利上げの段階に達したかまだ確かではない、などと慎重な発言もしているが、米経済はかなり良好に進行している、インフレ率上昇への確信はかなり高い、などと述べた部分がタカ派的で 9 月利上げの可能性を残すものと解釈されたようだ。他方、その前に発表された、Fed が最も重視しているインフレ指標である米コア PCE デフレーターは前年比+1.2%と、前月および市場予想を下回るなど低迷が続いており、インフレ指標は利上げを急ぐ必要がないことを示唆している。

ユーロ/ドルは、欧州時間入りにかけて一時 1.13ドル台を回復する局面もあったが、Fischer・FRB 副議長発言を受けたドル高により、1.12ドルを割り込み一時 1.1156ドルの安値をつけた。この間、ドイツ分 8 月 HICP(総合インフレ率)が発表されたが、前年比+0.1%と前月および市場予想と同じ伸びにとどまったことから、今週の ECB 政策理事会に向けた追加緩和期待はまだ高まっていないようだ。

ユーロ/円は、概ね横ばい圏内の動きだがどちらかというとドル/円よりもユーロ/ドルの動きに類似した展開となり、欧州時間にかけて一時 136 円台半ばへ強含みとなった後、Fischer 副議長発言後に 135.31 円へ下落し前日の直近安値(135.26 円)に迫った。

豪ドル/米ドルは、アジア時間は前日からの堅調地合いを引きつぎ一時 0.72 ドル台へ小幅続伸する局面もみられたが、欧米時間にかけて 0.7121 ドルへ反落した。但し、Fischer副議長発言後の米ドル高には余り反応せず、むしろその後の原油などコモディティ価格の大幅上昇に下支えられたかたちだが、とは言え大幅反発にも至らず、結局 0.71 ドル台半ばと前日の引けの水準に戻った。

豪ドル/円は、V字型の動きとなり、アジア時間に 87 円台乗せとなった後、NY時間にかけて 86.04 円へ反落したが、引けにかけては再び 87 円台を回復した。

きょうの高慢な偏見：市場と中銀の作用・反作用

[今週の見通しはこちら\(8月28日付FX戦略ウィークリー\)](#)

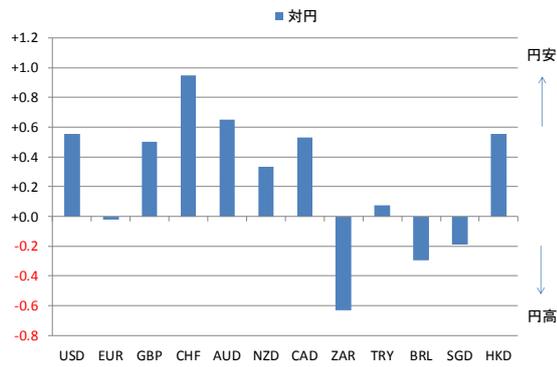
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、中国株価の持ち直し継続が下支えとなる一方、米利上げ期待についてはやや行き過ぎで調整が入り易いとみられることから、121 円台でのみみ合い推移となりそうだ。Fischer 副議長は週末のジャクソンホール・シンポジウムで、米景気回復やインフレ率の中期的な 2%への回帰に自信を示しつつも、中国景気減速への懸念やドル高への景気抑制効果にも言及しており、9 月利上げ開始に確信を持っていない様子が窺える。雇用統計など米経済指標が多少上振れしても、中国景気減速の悪影響の広がりや中国をはじめとする世界株価の不安定は続いていることから、利上げを急ぐ必要はなく、12 月が妥当とみられるが、9 月 16-17 日開催の FOMC に向けては Fed 高官発言や経済指標に一喜一憂し、上下に振れやすい展開が続きそうだ。

ユーロ/ドルでは、ユーロ圏 HICP が注目で、市場予想の前年比+0.1%への低下を更に下回ると、デフレ再発懸念と 9 月 3 日の ECB 政策理事会に向けて ECB 追加緩和期待が高まり易く、続落しそうだ。

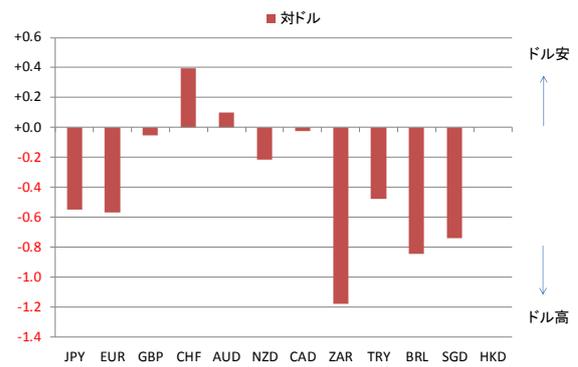
豪ドル/米ドルは、原油や銅などコモディティ価格の回復が続くようであれば底堅い展開となりそうだが、景気下支えのために豪ドル安が必要と考えている RBA は 9 月 1 日の理事会などで豪ドル高牽制を若干強めるとみられ、豪ドル高余地は限定的となりそうだ。

主要通貨の対円相場(前日比%)



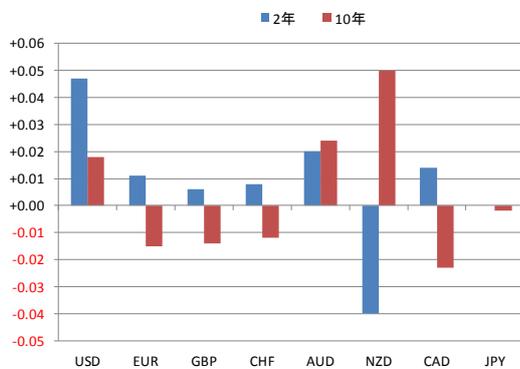
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



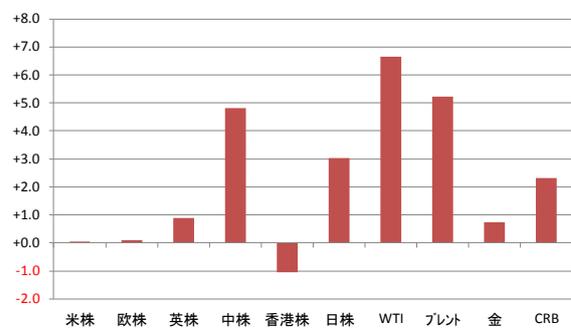
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会